

2019年度 一般入学試験（後期日程） 経済学部 地域環境政策学科 出題の意図

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
17	2

2. 地域環境政策学科 アドミッション・ポリシー

地域環境政策学科では、経済の視点から地域と環境を考えることを通して、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献し、持続可能な社会を創造できる人材の育成を目指しています。そこで、本学科では、次の①～⑤について自らの言葉で説明できる志願者を求めています。

- ① 沖縄及び世界の経済や環境に広く関心がある人
- ② 沖縄地域の経済や環境を含めた、沖縄の過去・現在・未来に関心がある人
- ③ 様々なフィールド（現場）に出て、積極的に活動することが好きな人
- ④ 社会で起きている様々な事柄に関心を持ち、地域社会及び世界へ貢献したいという熱意のある人
- ⑤ 大学の授業に耐えうる基礎学力を有し、勉学に対する意欲がある人

特にA O型入学試験では、一般試験だけでは測ることが難しい多様な資質を有する学生を受け入れるため、コミュニケーション能力が高く、上記の①～⑤について自らの言葉で表現でき、学内外の活動に積極的に取り組んだ実績があり、それらの活動が、本学科で学ぶ上でどのような意味を持つのかを説明できる志願者を求めます。

3. 出題の意図

本出題は、少子高齢化による国内の労働力不足という状況を受けて、2018年12月、外国人労働者の受け入れ拡大を骨子とする、出入国管理法の改正法案が国会で成立したことを受けたものである。同法案をめぐって報道では、福祉、運輸、建設、サービス業等における労働力不足や労働条件の問題がクローズアップされるとともに、現行の制度下で外国人技能実習生やアルバイトの留学生がおかれた人権状況の問題が連日取り上げられた。本出題では、我が国が抱えるこのような状況について、どの程度、知識や関心があるか、また考察する力があるかを見る。なお、沖縄県内の特徴として、外国人労働者に占める、ネパールからの語学留学生の割合が非常に高いという特徴があるため、これを読み取るための資料を問題文に含めている。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

採点においては、外国から労働力が流入する（送り出し・受け入れ双方の）経済的背景と、沖縄の地域社会への影響について、知識、関心、考察の深さを、総合的に評価した。また、文章力（論理性、構成力、語彙力）や、データの読み取り能力について、基礎学力として評価の対象とした。また、個人的体験に基づく特に優れた考察がある場合や、沖縄の社会について積極的な未来像が示されているといった場合に加点を行っている。